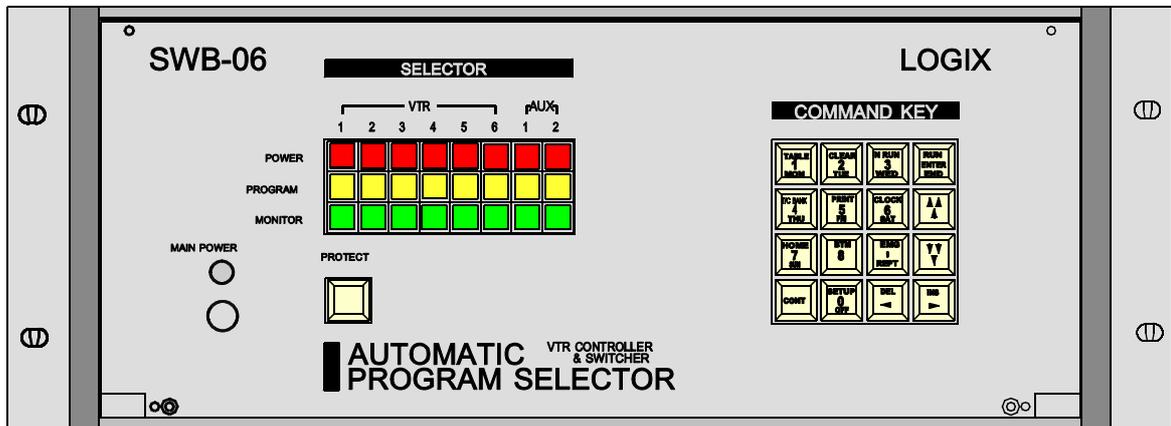


自動送出装置 SWB-06(12)

操作説明書



LOGIX

目次

VTR 本体の設定	1
UVW-1200	1
DSR-20,DSR-45	1
9ピンコントロール系のVTR	1
電源 ON/OFF	1
キー操作について	1
基本的な動作の説明	2
AV セレクター	2
画面説明	3
VTRバンクデータ入力	4
タイムテーブルデータ入力	5
SWB-06の場合	8
SWB-12の場合	8
タイムテーブルの編集	9
カーソル移動	9
挿入、削除	9
WEEK,TIME フィールド再計算	9
COPY	10
自動計算機能について	11
タイムテーブルエラーデータ表示	11
1. VTRの整合性が失われる場合	11
2. 時刻の整合性が失われる場合	12
タイムテーブル入力を終了する	12
実行	13
タイムテーブルの1行目をタイマーセットしてその時刻からスケジューラを実行する。	13
タイムテーブルの任意の行からすぐに実行する。	13
現在時刻の設定、変更	15
送出装置からVTRを手動でコントロール	16
初期設定(OPTION)	17
VTR & SWITCHING TIMING SET	17
AUDIO GAIN SET	18
AUDIO MODE SET (変調器制御モード設定)	18
OPTION SETUP (その他の動作モード設定)	19
1. WEEK INPUT ON / OFF	19
2. NO VIDEO JUMP NEXT / AUX2 / NOTHING	19

3. TAPE END TIMER / TC	19
4. ERASE WEEKTIME Erase / NOT Erase	19
5. NEXT TIME CALC ON / OFF	20
データクリア (CLEAR)	20
プリントアウト(印刷)	21
タイムテーブルデータの印刷	21
その他のデータの印刷	22
緊急入力端子	23
その他の機能	23
VTR にテープを挿入すると自動的に頭出しを行う。	23
機器の接続	24
注意事項	25
頭出しエラーについて	25
強制実行(NRUN)での注意	25
プリントアウトメニューと CLEAR メニュー	25
タイムコードについて	25
タイムテーブル参考例	26
WEEK について	26
TIMER モードか T/C モード (初期設定-OPTION - TAPEEND) について	26
タイムテーブルの記述の仕方による動作の違い	27
タイマーモードの場合	27
1. タイムテーブルの VTR-B フィールドを空白にするか END にしたとき	27
2. タイムテーブルの VTR-B フィールドを REPT にしたとき	27
T/C モードの場合	28
1. タイムテーブルの VTR-B フィールドを空白にするか END にしたとき	28
2. タイムテーブルの VTR-B フィールドを REPT にしたとき	28
タイムテーブルに複数のスケジュールを記述し、実行する。	29

VTR本体の設定

UVW-1200、DSR-20を使用するときはVTRのメニュー設定を次のようにします。

UVW-1200

RS-232C bps 38400BPS

他は工場出荷時状態

DSR-20

RS-232C BAUD RATE 19200BPS

CLOCK SET で時刻を合わせる

他は工場出荷時状態

DSR-20の電源は送出装置背面のコンセントに接続せず、常時ONのコンセントに直接接続してください。電源制御は通信ポートから行います。

DSR-45

RS-232C BAUD RATE 19200BPS

CLOCK SET で時刻を合わせる

他は工場出荷時状態

DSR-45の電源は送出装置背面のコンセントに接続せず、常時ONのコンセントに直接接続してください。電源制御は通信ポートから行います。DSR-45はDSR-20のモードで使用してください。

9ピンコントロール系のVTR

工場出荷時状態

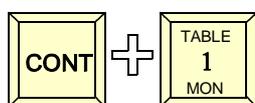
他の設定項目、たとえば、STOP TIMER, STILL TIMER, LOCAL ENABLE等は使用状態に応じて設定してください。

電源ON/OFF

MAIN POWER のキースイッチを右に90度回転することによって電源が入ります。キーは、どのポジションでも引き抜くことができます。

キー操作について

操作の中であるキーを押しながら別のキーを押す操作があります。たとえば、コントロールキーを押しながら、数字の1キーを押すときは下記のように記述します



基本的な動作の説明

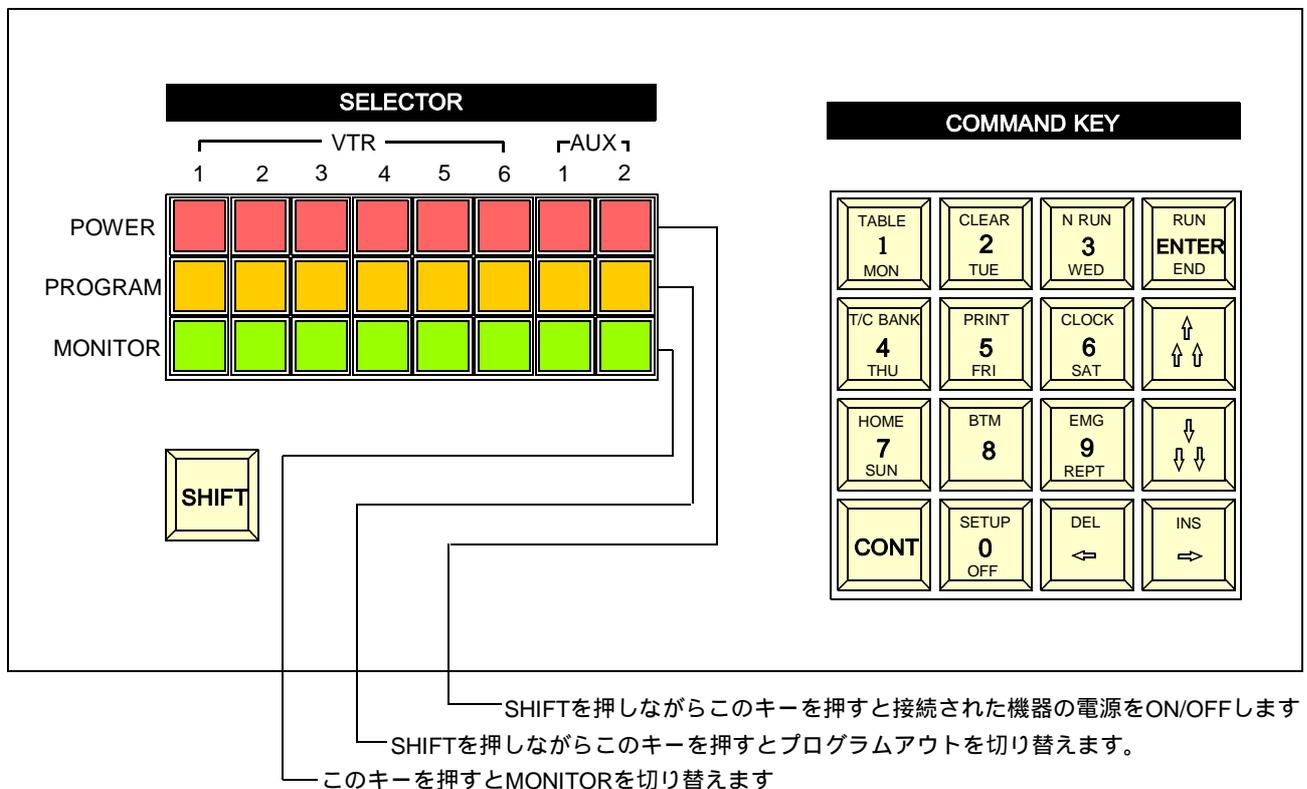
1. 接続された機器に合わせて初期設定を行う。この作業は導入時に行う。
2. VTRにセットする全てのテープのタイムコード（番組の開始点、終了点）を入力する
3. タイムテーブルを入力する
4. 実行する

（注意）

タイムテーブルを入力する前に必ず、タイムコードデータを入力して下さい。タイムテーブル入力時、タイムコードデータから次に実行する時間を計算するため、タイムコードデータが入力されてないとタイムテーブルを入力できません。

タイムテーブル入力後にタイムコードデータを変更した場合は、一度タイムテーブル入力モードに入り、変更したVTR-Bにカーソルを移動して同じデータを入力してください。タイムコードを変更しただけではその内容はタイムテーブルには反映されません。

AV セクター



画面説明

The screenshot displays the SWB-06 LOGIX interface with several key sections highlighted by colored boxes and lines:

- Header:** SWB-06 LOGIX [Ver. 1.20] 0030 TIME TABLE 23.5SEC
- MODE:** NORMAL MODE
- CLOCK:** 1998-10-10 SUN 09:30:35, NEXT TIMER SUN 09:59:35
- VTR-B Table:**

VTR-B	Top T/C	END T/C
V01-1	00:01:00:00	00:31:00:00
V01-2	00:35:00:00	00:50:00:00
V01-3		
V01-4		
V01-5		
V01-6		
V01-7		
V01-8		
V01-9		
- VTR-B Stat Table:**

VTR-B	Stat	T/C	Top T/C	END T/C
V01-1	OFF	---	00:01:00:00	00:31:00:00
V02-2	OFF	---	00:35:00:00	00:50:00:00
V03-1	OFF	---		
V04-1	OFF	---		
V05-1	OFF	---		
V06-1	OFF	---		
- Copy Range:** CopySta=0001 CopyEnd=0025
- EMG Status:** DISABLE (pink box), ERROR (red box)

タイムテーブル

タイムテーブル入力時、コピーを行うときに表示されるコピー範囲のデータ
EMG入力の有効/無効状態と、EMG入力の状態を表示する

操作モードの表示

現在時刻の表示

次に起動がかかる時刻の表示

VTR-BANKを設定、表示するウィンドウ

VTRの動作状態、動作タイムコード、次に実行すべきタイムコードを表示する
エラーが発生したときにその内容を表示する。

タイマーで起動がかかった場合、切り替わるまでの残り時間を表示する

タイムテーブル入力時、次の時刻計算を行うときの計算行を表示する

次に実行予定のVTRバンク番号を表示する。

VTRの現在の動作状態を表示する。

VTRの現在のタイムコードを表示する。電源が入っていないものは表示しない。

次に実行予定のVTRバンクデータ。番組始めのタイムコード。

次に実行予定のVTRバンクデータ。番組終わりのタイムコード。

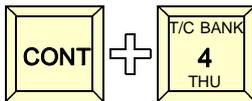
VTRバンクデータ入力

タイムテーブル入力にはいる前にまず、VTRバンクの設定が必要です。

ここではテープに記録された番組の頭と終わりのタイムコードを入力します。

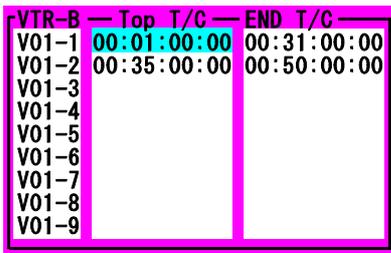
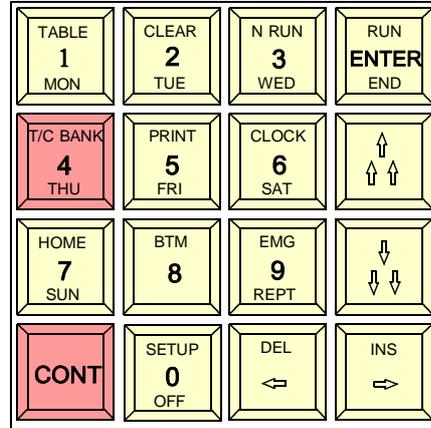
1本のテープにつき、最大9番組の設定が可能です。

NORMAL MODEから



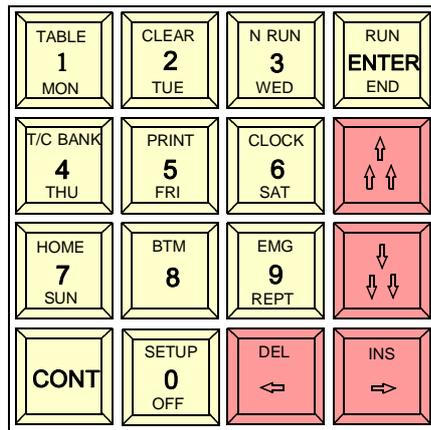
を押す。

(CONTキーを押しながら4キーを押す意味)

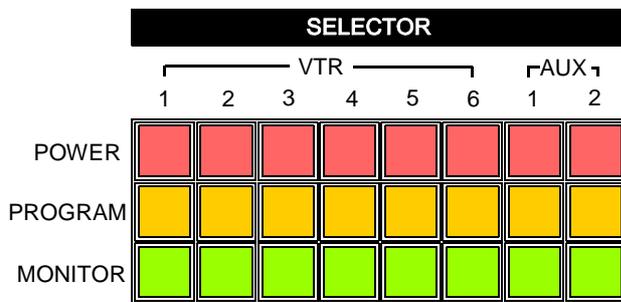


VTRバンク入力ボックスがピンクに変わり水色のカーソルが表れます。このカーソルは矢印キーで移動します

タイムコードデータを数字キーで入力します。コロン「:」を入力する必要はありません。入力は電卓などと同じです。変更は、0を続けて入力することで行います。また、カーソルをいったん動かすと、次の入力の際に0にクリアされます。



VTRの番号を変えるときはセレクタのモニターキー1 - 6を押してください。



モニター1を押すとVTR1の入力画面にモニター3を押すとVTR3の入力画面になります。

VTRバンクデータ入力を終了するとき



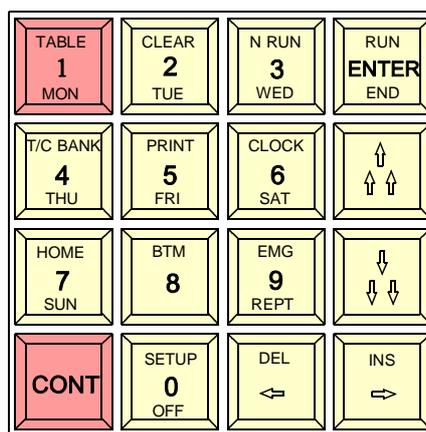
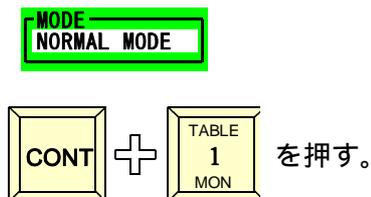
を押します。

タイムテーブルデータ入力

タイムテーブル入力では番組の開始時刻、VTRバンク番号、変調器制御コードの入力をします。

設定により、週データを入力しないモードにすることもできます。VTRバンク番号はあらかじめ入力したVTRバンクデータに基づき入力します。変調器制御コードはあらかじめ設定したデフォルト値が自動的に表示されます。

まず、NORMAL MODEから



TIME TABLE

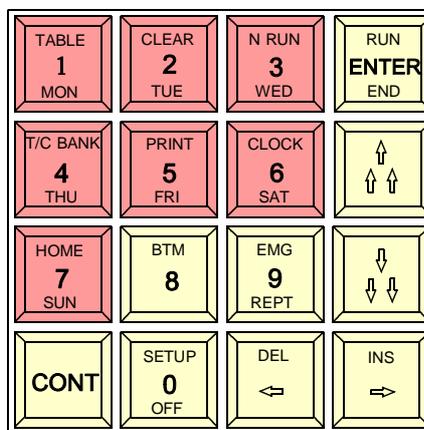
No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001				
0002				
0003				
0004				
0005				
0006				
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

タイムテーブルの Week のところに赤いカーソルが表れます。このカーソルは左右の矢印キーで動かすことができます。上下はデータが入力されている範囲内しか動かすことができません。一番最初は下側への移動はできません。

ここに入力するデータは開始したい番組の週のデータです。月曜から、日曜までのデータを次のキーで入力します。1キーを押すと次のように表され、カーソルはTIMEのところへ移動します。

TIME TABLE

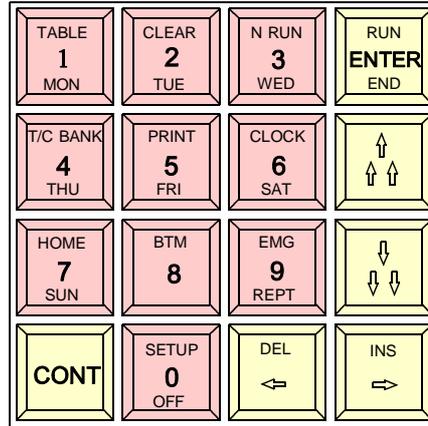
No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	MON	:	:	
0002				
0003				
0004				
0005				
0006				
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				



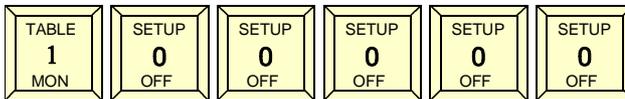
番組の開始時刻を 1 - 0 キーで入力します。

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	MON	█ : :		
0002				
0003				
0004				
0005				
0006				
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				



ここでは'10:00:00'と入力してみましょう。



と続けて押します。

コロンは自動的に表示されます。

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	MON	10:00:00	█	
0002				
0003				
0004				
0005				
0006				
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

カーソルは VTR-B に移動します。

入力したデータを変更するときは矢印キーでカーソルを移動し、再度正しいデータを入力します。

ここでは放送する番組の V T R バンク番号もしくは外部入力番号をを指定します。ここでは VTR2-1 を例として入力します。

まず V T R の番号の 2 を押します。



TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	MON	10:00:00	V02-█	
0002				
0003				
0004				
0005				
0006				
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

左図のように VTR 番号が表示され、同時に V T R バンク表示ボックスが VTR2 のデータを表示します。この中から放送するバンクを選択しその番号を入力します。ここでは 1 キーを押します。もしバンクデータが存在しない番号を入力した時はアラームがなり再度入力をする必要

があります。

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	MON	10:00:00	V02-	
0002				
0003				
0004				
0005				
0006				
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

VTR-B	Top T/G	END T/G
V02-1	00:01:00:00	00:31:00:00
V02-2	00:35:00:00	00:50:00:00
V02-3		
V02-4		
V02-5		
V02-6		
V02-7		
V02-8		
V02-9		

↑ VTR2の表示に切り替わる

ここでバンク番号の

TABLE
1
MON

 を押します

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	MON	10:00:00	V02-1	M
0002	MON	10:30:00		
0003				
0004				
0005				
0006				
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

左図のように番号が入力され、MOD の位置には M と表示されます。これは変調器制御をモノラルにするという意味で、このデータは OPTION で設定されたものが自動的に表示されます。表示されたものと違う設定にする場合は、カーソルを MOD フィールドに移動し次のキーを押します。

TABLE
1
MON

モノラル (Mと表示される)

CLEAR
2
TUE

ステレオ (Sと表示される)

N RUN
3
WED

音声多重 (2と表示される)

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	MON	10:00:00	V02-1	M
0002	MON	10:30:00		
0003				
0004				
0005				
0006				
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

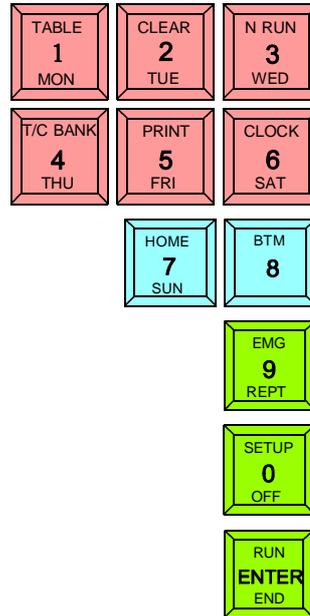
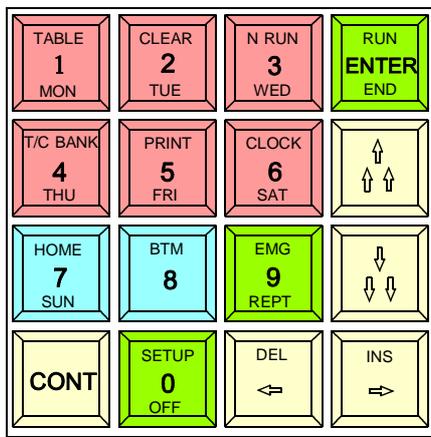
TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	MON	10:00:00	V02-1	M
0002	MON	10:30:00	V03-1	M
0003	MON	11:00:00	V04-1	M
0004	MON	12:00:00	AUX1	M
0005				
0006				
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

バンク番号を入力した時点で、2行目の週と TIME は緑色で表示されます。これはVTRバンクに入力されたデータから番組の長さ、次の開始時刻が計算されたものです。このように2行目以降はVTRバンクデータを入力すると次の時刻データは入力する必要がなくなります。ただし、AUXやVTRをAUXとして設定した場合はVTRバンクデータがありませんので、次の時刻の計算はできないため、カーソルが Week フィールドに移動し、そのデータを入力する必要があります。Week, TIME フィールドの色は自動計算されたところが緑色、手動入力したところが黄色となります。

VTR-B フィールドで入力できるキーを下記に示します。

SWB-06 の場合



VTR1 から VTR6 の入力
ができます。

7 で AUX1
8 で AUX2

9 で REPT (リピート)

0 で OFF

で END を入力します

SWB-12 の場合

SWB-12 の場合、VTR 番号は 1 から 12 までありますから

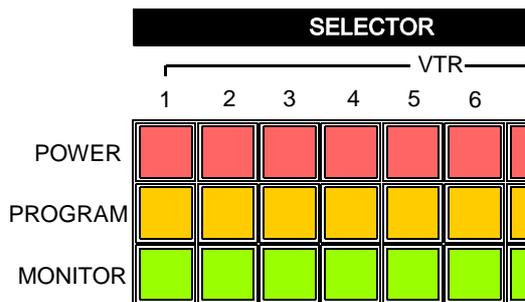
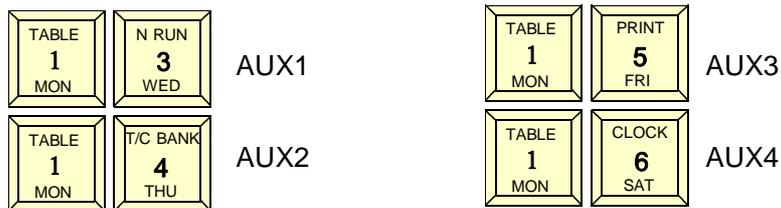
VTR1 の場合は



VTR9 の場合は

と  入力します。

また AUX1 から AUX4 は次の通りです



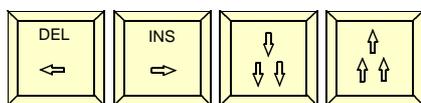
また SWB-12 の場合

カーソルが VTR 番号の選択の時は、セレクトキー
の MONITOR (緑色) を押してもその番号を入力す
ることができます。

タイムテーブルの編集

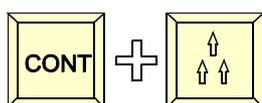
一度入力したデータを何度も繰り返し入力しなくてすむように編集機能があります。

カーソル移動

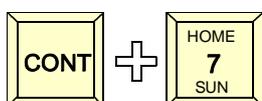
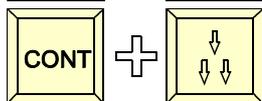


これらのキーを押すとカーソルが移動します。

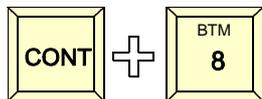
上下のキーは押し続けるとリピート機能が働き、スクロールすることができます。



CONT キーと上下キーを同時に押すと100行ずつスクロールします。

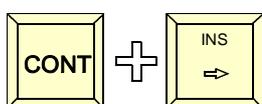


カーソルが1行目に移動します。

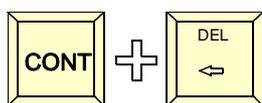


カーソルが入力されている最下行に移動します。

挿入、削除

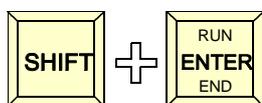


カーソル行に1行空行を挿入します。自動計算がONになっている場合は挿入場所によって時刻フィールドが表示されます。

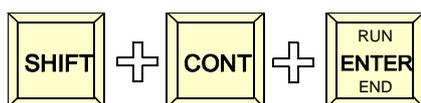


カーソル行を1行削除します。削除された行より下の行は1行繰り上がり、自動計算がONになっている場合は時刻の再計算が行われ表示されます。

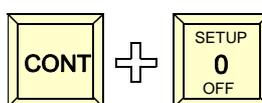
WEEK,TIME フィールド再計算



手入力以外のタイムフィールドデータをすべて再計算します。手動入力された部分は変更されず、それ以降の計算の基準になります。



手入力された部分のデータも再計算の対象になります。ただしAUXの後の手動入力データは対象外です。



WEEK,TIME フィールドにカーソルがあるとき、その行から下の手動入力データまでを再計算します。

COPY

タイムテーブルで繰り返しパターンの場合はブロックのコピーができます。
まずコピー元の最初の行にカーソルを移動します。

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	MON	10:00:00	V02-1	M
0002	MON	10:30:00	V03-1	M
0003	MON	11:00:00	V04-1	M
0004	MON	12:00:00	AUX1	M
0005				
0006				
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

CopySta=0001

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	MON	10:00:00	V02-1	M
0002	MON	10:30:00	V03-1	M
0003	MON	11:00:00	V04-1	M
0004	MON	12:00:00	AUX1	M
0005				
0006				
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

CopySta=0001

CopyEnd=0004

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	MON	10:00:00	V02-1	M
0002	MON	10:30:00	V03-1	M
0003	MON	11:00:00	V04-1	M
0004	MON	12:00:00	AUX1	M
0005	MON	10:00:00	V02-1	M
0006	MON	10:30:00	V03-1	M
0007	MON	11:00:00	V04-1	M
0008	MON	12:00:00	AUX1	M
0009				
0010				
0011				

CopySta=0001

CopyEnd=0004

ここで  +  を押します

タイムテーブル下に水色で CopySta 行が表示されます。

次に、コピー元の END 行にカーソルを進めます。

ここで  +  を押します。

タイムテーブル下に水色で CopyEnd 行が表示されます

次はコピー先にカーソルを進めます。

ここで  +  を押します。

COPY が実行されます。

再度  +  を押すと

同じ内容が COPY されます。

水色のコピー範囲を消すには

 +  を押します。

(注意) COPY は上書きで実行されます。

上書きしないときはあらかじめ挿入でスペースを空けておきます。

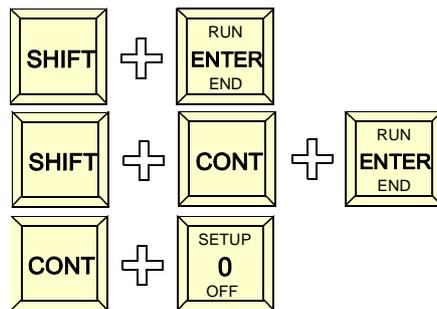
自動計算機能について

タイムテーブル入力の手間と、ミスを防ぐために VTR 番組に関しては、VTR バンクデータから番組の長さを計算し、次に実行する番組の開始時刻を自動的に表示する機能があります。AUX 系 (AUX1, AUX2, VTR の設定を AUX にしたもの) の入力の場合は、番組長さのデータがありませんので、次の開始時刻は必ず手入力する必要があります。

ただし、VTR 番組の場合も自動計算されたデータを手入力で編集すると、計算されたデータとは違う時刻を入力することができます。ここで、自動計算された時刻より、手前の時刻を入力したときは番組が早く終わるだけで問題ないのですが、その時刻より後の時刻を設定したときは、送出する番組がなくなることになりますので、基本的にエラーとなります。エラーはピンク色で表示されます。

また、編集中 (書き換え) の自動計算は次の行が空白か、自動計算されたデータの場合にのみ行われます。次の行が手入力されたもの (黄色で表示) の場合、自動計算の対象からはずれます。これは、VTR 番組の場合でもその VTR 番組の長さに依存しないで、次の行の開始時刻を自由に設定できるように設けた機能です。

一括して再計算する場合は、**WEEK, TIME フィールド再計算** を参照してください。



タイムテーブルエラーデータ表示

なにも入力されていないところにデータを入力しただけなら、時刻自動計算が働き、データの整合性が保たれますが、INSERT、DELETE、COPYなどの操作を行うと時刻の整合性や VTR 番号の整合性が失われることがあります。このとき、エラー部分はピンク色で表示されます。

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	MON	10:00:00	V02-1	M
0002	MON	10:30:00	V01-1	M
0003	MON	11:00:00	V02-1	M
0004	MON	12:00:00	AUX1	M
0005	MON	10:00:00	V02-1	M
0006	MON	10:30:00	V03-1	M
0007	MON	11:00:00	V04-1	M
0008	MON	12:00:00	AUX1	M
0009				
0010				
0011				

1. VTR の整合性が失われる場合

DELETE操作を行うと同じ VTR 番号が続けて表示されることがあります。たとえば V01-1 から V01-2 への切り替えは物理的に不可能ですから、エラーとなります。この場合は違う VTR を指定する必要があります。

2. 時刻の整合性が失われる場合

デリート、インサート、コピー操作を行うと開始時刻の整合性が失われることがあります。このとき、エラーの時刻データがピンクになります。このときは手動で正しいデータを入力するか、エラーの上にカーソル

を移動し  +  を押すと、その行か

ら次の手入力行までを再計算します。

また  +  +  を押すと、

全部を再計算します。

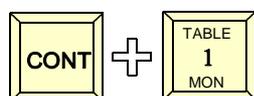
左図の場合、V02-1 の番組長さは30分しかないのに次の AUX1 に切り替わるまでに1:30分あるため、1時間分の送出するソースがなくなるためエラーとなります。

タイムテーブル入力、編集後はテーブル全体をスクロールして、エラー部分がないか確認をしてください。

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	MON	10:00:00	V02-1	M
0002	MON	10:30:00	V01-1	M
0003	MON	11:00:00	V02-1	M
0004	MON	12:30:00	AUX1	M
0005	MON	10:00:00	V02-1	M
0006	MON	10:30:00	V03-1	M
0007	MON	11:00:00	V04-1	M
0008	MON	12:00:00	AUX1	M
0009				
0010				
0011				

タイムテーブル入力を終了する



を押します。実効状態になにも影響を与えずにタイムテーブル入力モードを終了します。

スケジューラ実行はタイムテーブル入力から行いますので、即実行するときは次の実行操作を行ってください。

実行

タイムテーブルの入力が終了したらスケジューラを実行することができます。

実行操作はタイムテーブル入力モードから行いますのでタイムテーブル入力モードに入ります。

実行には次の2通りがあります。

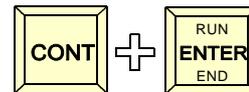
タイムテーブルの1行目をタイマーセットしてその時刻からスケジューラを実行する。

TIME TABLE				
No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	MON	10:00:00	V02-1	M
0002	MON	10:30:00	V03-1	M
0003	MON	11:00:00	V04-1	M
0004	MON	12:00:00	AUX1	M
0005				
0006				
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

CLOCK	
1998-10-10	
MON 09:15:20	
NEXT TIMER	
MON 09:59:35	

ここに1行目の時刻に対応したデータが表示される

タイムテーブル入力モードから



を押します。

赤いカーソルはタイムテーブルから消え、1行目の時刻の25秒前の時刻がNEXT-TIMERに表示されます。

この設定された時刻になると1行目を実行します。

(注意)

この装置では次のVTRを実行するためのセットアップタイムを25秒としています。実行25秒前に電源を入れ実行の準備をします。このため、NEXT-TIMERに表示される時刻は25秒前となります。

セットアップに25秒必要ですから番組の最短時間は26秒となります。

タイムテーブルの任意の行からすぐ実行する。

タイムテーブル入力モードに入り実行した偉業へカーソルを進めます。

例として2行目から実行します。カーソルを2行目に移動します。

TIME TABLE				
No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	MON	10:00:00	V02-1	M
0002	MON	10:30:00	V03-1	M
0003	MON	11:00:00	V04-1	M
0004	MON	12:00:00	AUX1	M
0005				
0006				
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

CLOCK	
1998-10-10	
MON 09:15:20	
NEXT TIMER	
MON 09:59:35	

ここで CONT +  を押します

NEXT-TIMERには3行目のセットアップ時刻が表示されます。

タイムテーブル上部に切り替わり開始までのダウンカウントタイマーが表示

されます。

TIME TABLE 23 5SEC				
No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	MON	10:00:00	V02-1	M
0002	MON	10:30:00	V03-1	M
0003	MON	11:00:00	V04-1	M
0004	MON	12:00:00	AUX1	M
0005				
0006				
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

CLOCK
1998-10-10
MON 09:15:20
NEXT TIMER
MON 11:59:35

↑
3行目のセット
アップ時刻

このダウンカウントタイマーが0になると2行目に青いカーソルが表示されず。これは実行行を意味します。同時にA Vセレクターも2行目の VTR3に切り替わります。

TIME TABLE				
No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	MON	10:00:00	V02-1	M
0002	MON	10:30:00	V03-1	M
0003	MON	11:00:00	V04-1	M
0004	MON	12:00:00	AUX1	M
0005				
0006				
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

CLOCK
1998-10-10
MON 09:15:20
NEXT TIMER
MON 11:59:35

SELECTOR								
	VTR						AUX	
	1	2	3	4	5	6	1	2
POWER	■	■	■	■	■	■	■	■
PROGRAM	■	■	■	■	■	■	■	■
MONITOR	■	■	■	■	■	■	■	■

↑ このラインに切り替わる

(ヒント)

この強制スタートを行うとスケジュールの実行を変更できます。タイムテーブルを変更した場合など、現在実行中の行にカーソルをあわせて強制スタートすると、タイムテーブルのその後の調整が行われます。実行中にタイムテーブルの変更をしたときにはこの作業を行います。

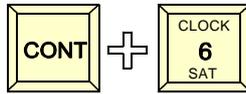
(注意)

任意の行から実行する強制スタートはタイムテーブルに記述された時刻とは無関係に実行を行います。その後の時間的なつながりは確認が必要です。

現在時刻の設定、変更

NORMAL MODEから

MODE
NORMAL MODE

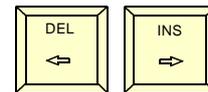
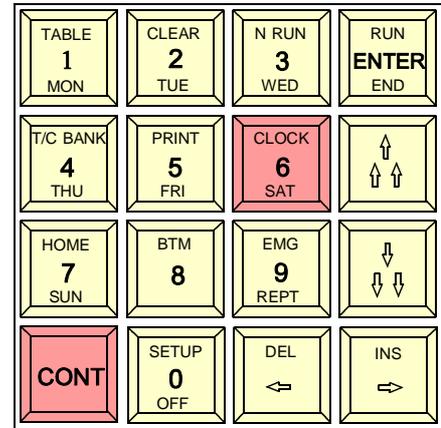


を押す。

(CONTキーを押しながら6キーを押す意味)

CLOCK
1988-10-10
SUN 09:30:35
NEXT TIMER
SUN 09:59:35

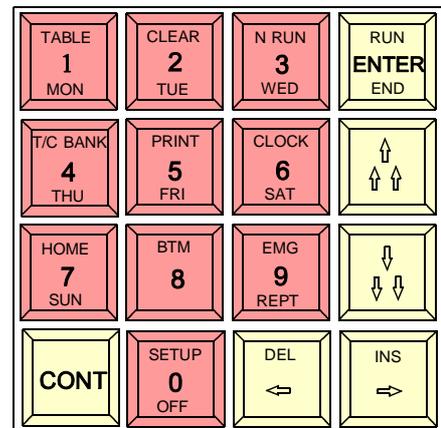
CLOCK の年のところに赤いカーソルが表れます。
カーソルの移動は左右の矢印キーで行います。



時計データの入力は数字キーで行います。
曜日は1 - 7キーで行います。



を押すと CLOCK 設定モードを終了し、
入力した値から時計がカウントを
始めます。

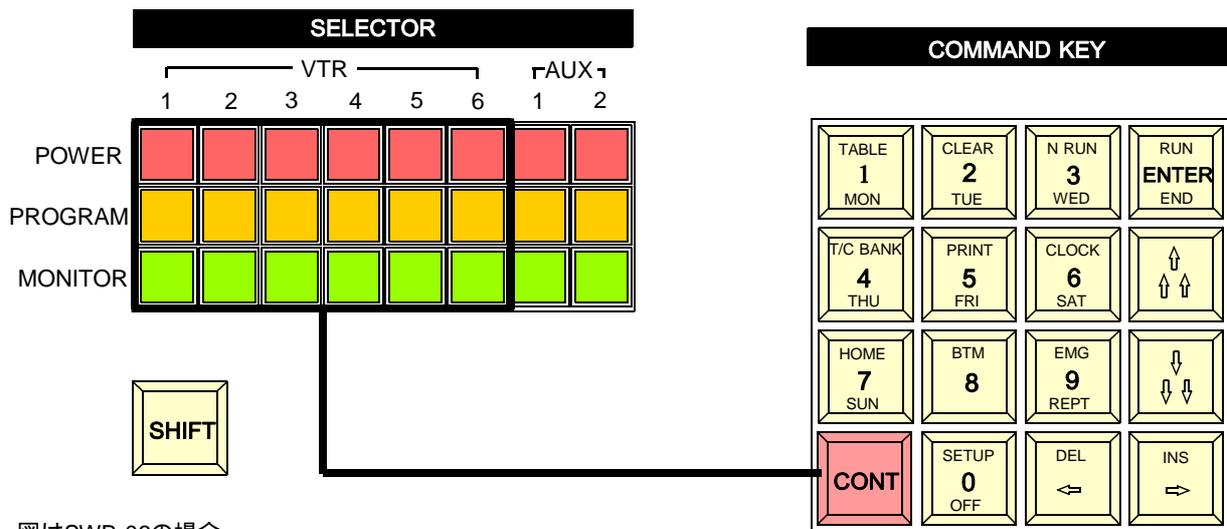


(ヒント)

この装置には内蔵時計を外部から校正する機能があります。装置背面パネルの校正端子をショートする事で内部時計の30秒校正をすることができますので、外部校正時計が接続されていないときには、この端子にスイッチを取り付けるだけで簡易校正が可能になります。この場合、時報と同時にスイッチを押すと内部の時計が0秒に校正されます。

送出装置から VTR を手動でコントロール

- CONT** を押しながらセクタの POWER 1 2 3 4 5 6 を
 押すと、対応した VTR が STOP 動作をする
- CONT** を押しながらセクタの PROGRAM 1 2 3 4 5 6 を
 押すと、対応した VTR が PLAY 動作をする。
- CONT** を押しながらセクタの MONITOR 1 2 3 4 5 6 を
 押すと、対応した VTR が頭出し動作をする

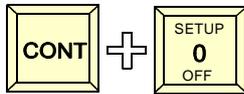


頭出し動作はステータスボックスに表示された VTR バンク番号に対応したタイムコード位置となります。

頭出し動作は、VTR にテープを挿入することでも行われます。この時、SELECTOR 部分の電源ボタンが ON になっている必要があります。本体背面の AC コンセントから電源をとらない場合は特にこの点に注意が必要です。(DSR-20 の場合は動作タイミングの関係で本体背面の AC コンセントに接続しない)

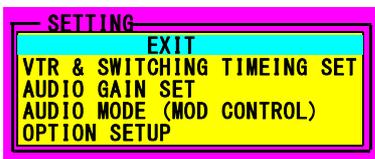
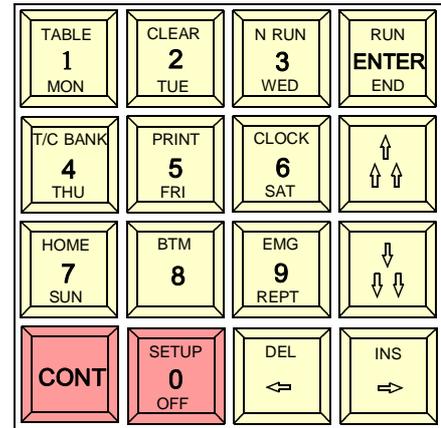
初期設定 (OPTION)

NORMAL MODEから



を押す。

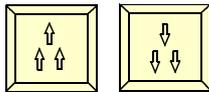
(CONTキーを押しながら0キーを押す意味)



左図の SETTING 画面が開きます。

ここで設定する項目は

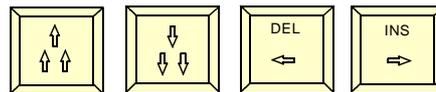
- VTRの種類とそのタイミング
- 各入力のゲイン設定
- 各入力ごとの変調器制御モード設定
- その他の動作モード設定



でカーソルを移動し、目的の設定のところで を押します。

VTR & SWITCHING TIMING SET

この項目では VTR の種類とそのタイミングを設定します。



でカーソルを移動します。データを変更するには目的のところにカーソルを移動します。そ

こで もしくは を押

すとデータの変更ができます。

設定できる VTR の種類は上記の 5 種類です。VTR コントロールプロトコルとして UVW-1200, DSR-20 系の RS232C 制御と 9P 系の RS422 制御です。RS232C 制御では上記の 2 機種しかサポートしていません。9P コントロールに関しては OTHER に設定します。

Timing Set Up		
VTR1	UVW-1200(232)	2.0
VTR2	DSR-20 (232)	2.2
VTR3	DSR-60 (9P)	2.2
VTR4	OTHER (9P)	2.2
VTR5	AUX (NOT VTR)	2.0
VTR6	UVW-1200(232)	2.0

右側の数字は VTR 切り替えタイミングのためのもので PLAY を押してから切り替えるまでの時間をプリセットします。変更は VTR 種類の変更と同じです。DSR-45 は DSR-20 で使用します。

 +  もしくは  +  押すと
 データの変更ができます。  で入力を終了します。

AUDIO GAIN SET



GAIN SET	
VTR1	0 dB
VTR2	0 dB
VTR3	0 dB
VTR4	0 dB
VTR5	0 dB
VTR6	0 dB
AUX1	0 dB
AUX2	0 dB
EMG	0 dB

この項目では各入力の GAIN を設定します。入力機器としては +4dB 系とラインなどの -10dB 系があります。これらの機器を混在して使用できるように入力ごとにゲイン調整が 2dB ステップで最大 +14dB まで設定できます。

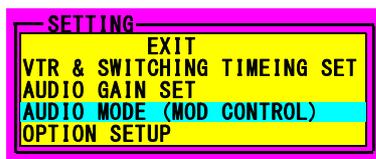
  でカーソルを移動します。データを変更するには目的のところにカーソルを移動します。そこで

 +  もしくは  +  押すと
 データの変更が可能です。
 で入力を終了します。

(注意)

ここで設定できるのはレベルのみです。インピーダンスは基板上のジャンパーで行います

AUDIO MODE SET (変調器制御モード設定)



AUDIO MODE SET	
VTR1	M: Mono
VTR2	S: Stereo
VTR3	2: Bi-Lin
VTR4	M: Mono
VTR5	M: Mono
VTR6	M: Mono
AUX1	M: Mono
AUX2	M: Mono

この項目では各入力に対して、変調器を制御するモードを設定します。設定内容は次の3種類です。

- M: MONORAL (モノラル)
- S: STEREO (ステレオ)
- 2: BiLingual (音声多重)

  でカーソルを移動します。

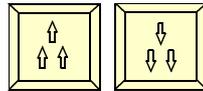
データを変更するには目的のところにカーソルを移動します。

そこで  +  もしくは  + 

を押すとデータの変更が可能です

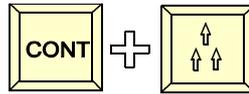
 で入力を終了します。

OPTION SETUP (その他の動作モード設定)

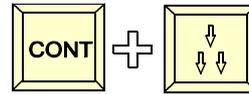


でカーソルを移動します。

データを変更するには目的のところにカーソルを移動します。そこで



もしくは



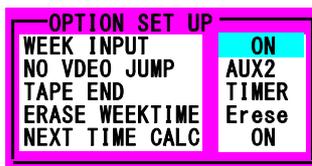
を押すと

データの変更が可能です。



で入力を終了します。

この項目ではその他の動作モードについて設定します。
設定項目は次の5種類です。

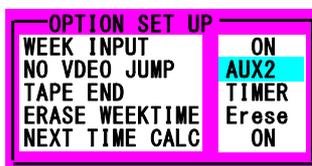


1. WEEK INPUT ON / OFF

タイムテーブル入力時 WEEK を入力するかどうかを設定します。

ON : 入力する

OFF: 入力しない



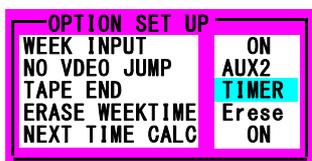
2. NO VIDEO JUMP NEXT / AUX2 / NOTHING

映像信号なしエラーの時の動作を設定します。

NEXT: タイムテーブルの次の行を実行する。

AUX2: AUX2 を実行する。

NOTHING: なにもしない。



3. TAPE END TIMER / TC

VTR 番組の場合、番組の終わりから次へ移るタイミングをタイマーにするか、END タイムコードにするかを設定します。

TIMER: 番組の終わり(次の番組のスタート)をタイマーで行う

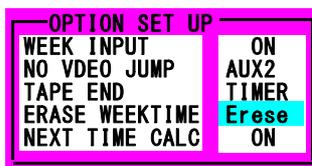
T/C : 番組の終わり(次の番組のスタート)をT/Cで行う

4. ERASE WEEKTIME Erase / NOT Erase

タイムテーブル入力時 VTR-B フィールドで AUX を入力したとき、次の行の WEEK,TIME フィールドにデータがあった場合それを消すか、消さないかの設定

Erase:消す,

NOTErase:消さない





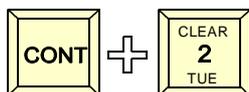
5. NEXT TIME CALC ON / OFF

タイムテーブル入力時、次の行の開始時刻を自動計算するかどうかの設定をする。

ON:計算する。OFF:計算しない。(この場合でも後で計算することはできる。)

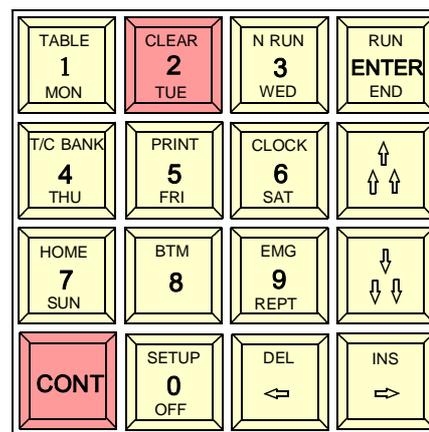
データクリア (CLEAR)

NORMAL MODEから



を押す。

(CONTキーを押しながら2キーを押す意味)



左図の CLEAR SELECT 画面が開きます。

データクリア項目は

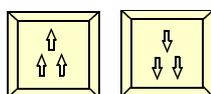
タイムテーブルデータすべて

HISTORY (実行履歴データ)

NOVIDEO(NOVIDEO 履歴データ)

)EMG (緊急入力端子に入力された履歴データ)

ALL MEM CLEAR (内部のメモリをすべてクリアします。))



で クリアしたい項目にカーソルを移動して

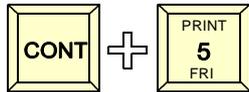


を押します。

なにもクリアしないときはEXIT を選択します。

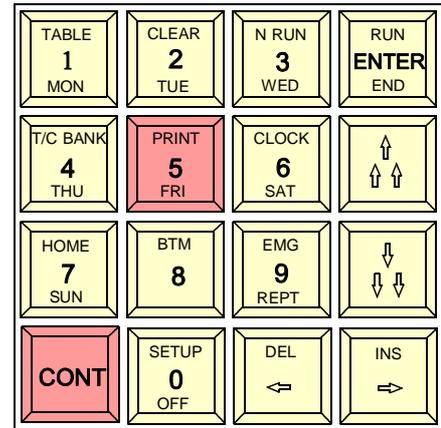
プリントアウト(印刷)

NORMAL MODEから



を押す。

(CONTキーを押しながら2キーを押す意味)



(注意) プリンタに紙がセットされて、印刷可能状態になっていることを確認してください。

左図の PRINT SELECT 画面が開きます。

印刷する項目は

タイムテーブルデータ (範囲指定可能)

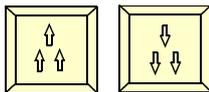
HISTORY (実行履歴データ)

NOVIDEO (NOVIDEO 履歴データ)

)EMG (緊急入力端子に入力された履歴データ)

SETUP DATA (初期設定のデータ)

T/C BANK (VTR バンクデータ)



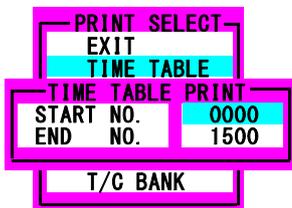
でクリアしたい項目にカーソルを移動して



を押します。

タイムテーブルデータの印刷

タイムテーブルを選択した場合は、印刷範囲指定のサブボックスが開きます。



START NO. (印刷開始行), END NO. (印刷終了行) を指定します。カーソルを移動し、数字キーを押して範囲を指定します。



キーを押すと、印刷を始めます。

範囲を指定しないで



キーを押した場合は入力されたタイムテーブルのデータすべてを印刷します。



印刷中（実際は送出装置からプリンタへデータが転送されている間）MODE ボックスで Printing が点滅します。プリントバッファの小さいプリンタでは転送に時間がかかることがあります。

もし、途中で印刷を止めたいときは



を押すと転送を止めることができます。

ただし、この操作は転送されたデータに対しては働きませんので、Printing の表示が消えた後で印刷と止めたいときはプリンタ側を操作して印刷を中止してください

その他のデータの印刷



そのほかのデータ印刷は印刷したい項目にカーソルを移動し



を押します。

タイムテーブル印刷と同じようにデータ転送中は Printing が点滅します。途中で止めるときも同じです。

転送が終了すると点滅は終わり、印刷メニューボックスは消えます。

1. HISTORY（実行履歴データ）
現在までの実行履歴（最大100イベント）印刷されます。
2. NOVIDEO(NOVIDEO 履歴データ）
現在までの NOVIDEO データ（最大100イベント）印刷されます。
3. EMG（緊急入力端子に入力された履歴データ）
最大10イベント印刷されます。
4. SETUP DATA（初期設定のデータ）
初期設定の内容一覧を印刷します。
5. T/C BANK（VTR バンクデータ）
バンクデータをすべて印刷します。

緊急入力端子

緊急入力のビデオ入力端子に映像が入力されたとき、その入力に自動的に切り替えることができます。この切り替えは、設定で ON/OFF できます。

NORMAL MODEから  +  を押します。



そうするとEMG表示ボックスの中で
DISABLE と ENABLE が交互に表示されます。

ENABLE：緊急入力に映像が入ったとき、その映像音声プログラムアウト、モニターアウトから出力されます。

DISABLE：緊急入力端子に映像が入ってきても切り替わりません。



EMGボックスの上段には映像が入ってきたときの時刻が表示されます。

その他の機能

VTRにテープを挿入すると自動的に頭出しを行う。

VTRの電源を入れテープを挿入すると自動的に頭出しを行います。

UVW-1200は電源を入れて5秒以上たってからテープを入れて下さい
早めに入れると頭出しをしません。その場合は手動で頭出しして下さい。

(注) テープには必ずタイムコードが入ったものを使用してください。テープを挿入したところにタイムコードがなければ頭出しはできません。
タイムコードは番組の始めと終わりに少なくとも30秒以上の記録が必要です。
できるならばテープの最初から最後まで記録することをお勧めします。また、タイムコードはテープ上で連続したものでなければ使用できません。不連続部分にまたがって使用した場合、動作がおかしくなることがあります。

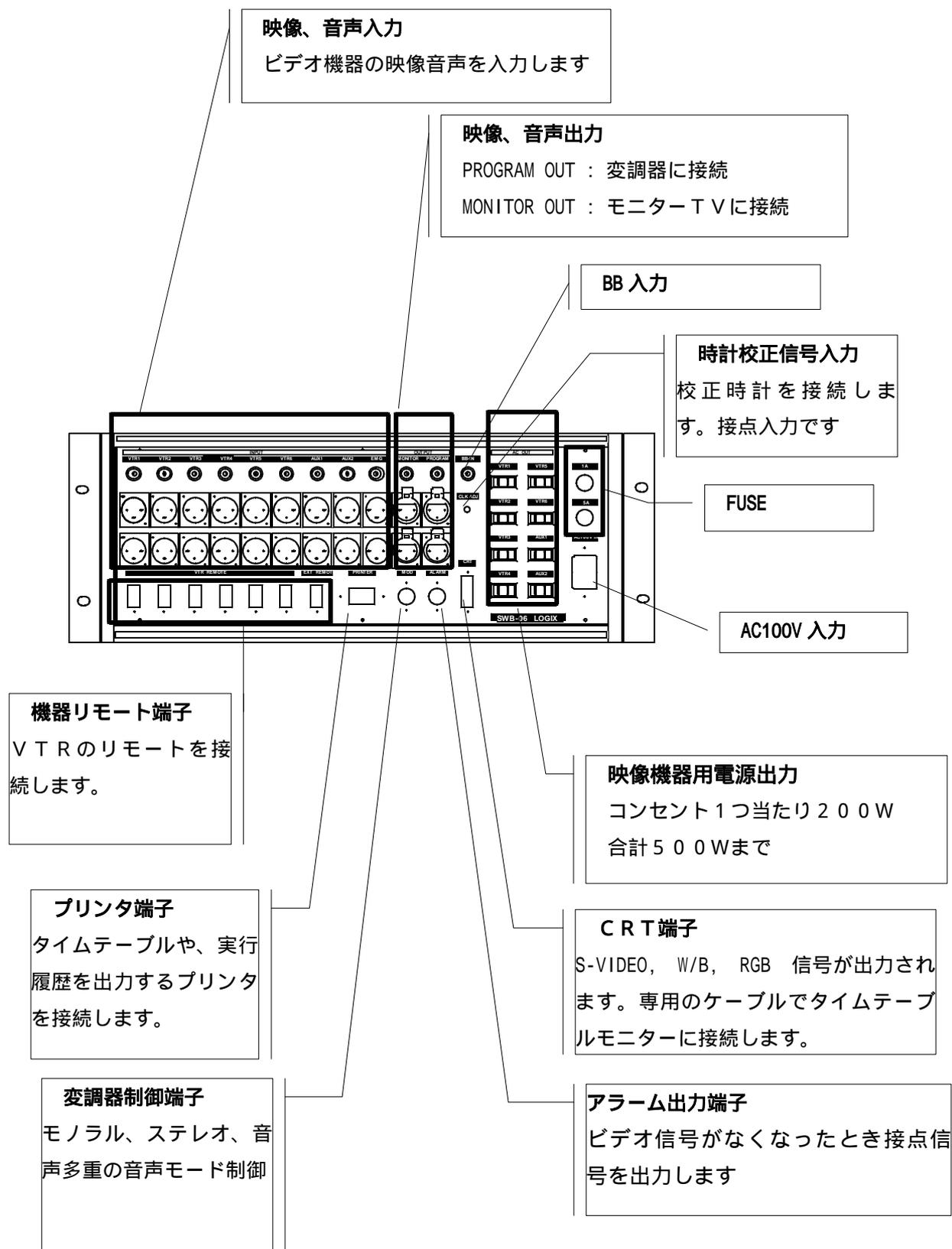
時計校正

リヤパネルの時計校正端子(RCA-PIN)をショートすると30秒校正を行います。
ここに校正用時計を接続します。

アラーム出力

自動送出実行中に出力の映像がなくなった場合、アラーム音を発生します。このときアラーム出力端子に接点信号を出力します。

機器の接続



注意事項

頭出しエラーについて

VTRにテープを挿入すると自動的に頭出しを行います。また、番組送出が終わったVTRは次の送出に備えて頭出しを行います。手動でも頭出しが可能です。

頭出しはタイムコードを基準に行います。指定したタイムコードがテープに見つからない場合はエラーとなります。エラーの場合は該当VTRのタイムコードステータス表示が赤色に変わりアラームとなります。この場合はテープと、設定タイムコードが正しいか確認をしてください。エラーの場合頭出しを3回トライし、その後はエラー状態を維持します。

エラーの原因を修正したら、手動頭出しを行うことでエラーは消えます。もしくは、テープを取り出し再度挿入すると頭出しを行います。

タイムコードはテープの始めから終わりまで連続して記録してください。プリロール、ポストロールのためタイムコードは番組より前後30秒以上が必要です。

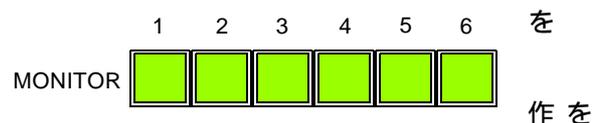
強制実行(NRUN)での注意

任意の行から強制実行(NRUN)をする場合は次の点に注意してください。VTR-BANKを1本のテープに対して複数指定しているときはN-RUNをした後次の頭出し位置を確認する必要があります。タイムテーブルを順番に実行している時は、つぎのVTRの頭出しは正しく行われ、待機状態になっているのですが、任意の行から実行するときはその後に実行されるものが頭出しができていないとは限りません。N-RUNをした後、その後に実行されるすべてのVTRの電源を入れ



を押しながらセクタの

を押すと、対応したVTRが頭出し動
します。



作を

プリントアウトメニューとCLEARメニュー

プリントアウトメニューとCLEARメニューは内容がよく似ています。プリントアウトするつもりでCLEARを行うとそのデータは削除され元に戻すことができなくなります。プリントアウトする際には注意してください

タイムコードについて

テープには必ずタイムコードが入ったものを使用してください。テープを挿入したところにタイムコードが記録されていなければ頭出しはできません。

タイムコードは番組の始めと終わりに少なくとも30秒以上の記録が必要です。できるならばテープの最初から最後まで記録することをお勧めします。また、タイムコードはテープ上で連続したものでなければ使用できません。不連続部分にまたがって使用した場合、動作がおかしくなることがあります。

タイムテーブル参考例

スケジュール実行はタイムテーブルの記述の仕方、WEEK データを使うか使わないか、それと VTR の番組の終わりを TIMER にするか、T/C に設定するかで変わります。

WEEK について

WEEK を使うときは 1 週間単位のプログラムを組むことができます。たとえば月曜から金曜までと土曜、日曜のパターンが違う場合などは WEEK を入力するようにして週間単位のプログラムを組みます。また、毎日同じパターンの時は WEEK を使わないように設定すると入力の手間が省けます。

入力は 1 週間分だけとか、1 日分だけでなく、1200 イベント（行）記述できますので 1 週間分入力した後にその次の週を入力すれば、順次実行していきます。WEEK を使用しないモードも同じです。

同じパターンを入力をするときはコピー機能を使うと便利です。まず 1 日分を入力して、その範囲をコピーし、開始時刻データを必要な部分だけ編集すると、次の日のスケジュールが完成します。

TIMER モードと T/C モード（初期設定-OPTION - TAPEEND）について

T/C に設定すると、VTR の場合は番組の終わりのタイムコードで次の番組に切り替わるように動作します。タイムテーブルでは WEEK, TIME フィールドが緑に表示されます。この緑の部分の時刻はタイマーにはセットされません。VTR から次への切り替えは T/C となります。ただし、AUX 系は番組の長さのデータがありませんので、AUX 系の次の行には必ず、時刻入力が必要となります。

この、TIMER モードか、T/C モードかで、同じタイムテーブルでも動作が違ってきます。基本的には TIMER モードで使用します。

TIMER モードと T/C モードの特徴について

TIMER モード： 実時間に沿ってスケジュールを組むので実時間を基準にした送出に適します。ただし最小分解能は 1 秒です。タイムテーブル入力時に自動計算された時間は緑色に表示されますが、タイムテーブル入力を終了するとすべて黄色に戻ります。これはすべてのイベントがタイマーによりスタートすることを意味します。指定されたタイマー時刻より早く VTR の終了番地に達したときは一時的に AUX2 に切り替わります。

T/C モード： タイムテーブルのイベントリストに記述された VTR の次のイベントは VTR のエンドタイムコードでスタートします。AUX 系の次のイベントはタイマースタートになります。タイムテーブルで自動計算された時間は緑色で表示されます。この時間は、単なる切り替わりの目安で、実行にはなにも影響しません。黄色の時間のみがタイマー起動の時間になります。次の実行時間よりも早く VTR のエンドタイムコードに達した場合は次のイベントに進みます。また、DF/NDF の違いによる番組送出誤差がありません。NDF で記録されたテープを TIMER モード使用すると番組の最後が切れることがあります

タイムテーブルの記述による動作の違い

タイマーモードの場合

1. タイムテーブルの VTR-B フィールドを空白にするか END にしたとき

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	SUN	10:00:00	V01-1	M
0002	SUN	10:30:00	V02-2	M
0003	SUN	11:00:00	V03-1	M
0004	SUN	11:20:00	V04-5	M
0005	SUN	11:40:00	V01-2	M
0006	SUN	11:55:00		
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

6 行目の 11:35:00 になると 1 行目のタイマーをセットして、待機します。このとき実行行表示の青いカーソルはタイムテーブルから消えます。

このタイムテーブルの場合 5 行目が VTR ですから、11:35:00 になった時点で番組も終わりになります。スイッチャーは AUX2 (SWB-12 の場合は AUX4) に切り替わります。

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	SUN	10:00:00	V01-1	M
0002	SUN	10:30:00	V02-2	M
0003	SUN	11:00:00	V03-1	M
0004	SUN	11:20:00	V04-5	M
0005	SUN	11:40:00	AUX1	M
0006	SUN	11:55:00		
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

左図のように 5 行目が AUX の場合は 11:35:00 になっても 1 行目の時刻になるまでそのまま切り替わりません。

2. タイムテーブルの VTR-B フィールドを REPT にしたとき

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	SUN	10:00:00	V01-1	M
0002	SUN	10:30:00	V02-2	M
0003	SUN	11:00:00	V03-1	M
0004	SUN	11:20:00	V04-5	M
0005	SUN	11:40:00	V01-2	M
0006	SUN	11:55:00	REPT	
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

6 行目の 11:35:00 になると 1 行目が実行を始めます。1 行目のタイマーは無視されます。1 行目に実行が移ると 2 行目のタイマーをセットします。この場合、2 行目のタイマー時刻になる前に V01-1 の番組は終了しますからその時点でスイッチャーは AUX2 (SWB-12 の場合は AUX4) に切り替わります。

このとき実行行表示の青いカーソルは 1 行目に表示されたままになります。2 行目のタイマー時刻なるまでこのまま待機します。

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	SUN	10:00:00	V01-1	M
0002	SUN	10:30:00	V02-2	M
0003	SUN	11:00:00	V03-1	M
0004	SUN	11:20:00	V04-5	M
0005	SUN	11:40:00	AUX1	M
0006	SUN	11:55:00	REPT	
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

左図のように 5 行目が AUX の場合も動作は同じです。

T/C モードの場合

1. タイムテーブルの VTR-B フィールドを空白にするか END にしたとき

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	SUN	10:00:00	V01-1	M
0002	SUN	10:30:00	V02-2	M
0003	SUN	11:00:00	V03-1	M
0004	SUN	11:20:00	V04-5	M
0005	SUN	11:40:00	V01-2	M
0006	SUN	11:55:00		
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

6 行目の V01-2 の番組終了タイムコードになると 1 行目のタイマーをセットして、待機します。このとき実行行表示の青いカーソルはタイムテーブルから消えます。

このタイムテーブルの場合 5 行目が VTR ですから、11:35:00 になった時点で番組も終わりとなり、スイッチャーは AUX2 (SWB-12 の場合は AUX4) に切り替わります。

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	SUN	10:00:00	V01-1	M
0002	SUN	10:30:00	V02-2	M
0003	SUN	11:00:00	V03-1	M
0004	SUN	11:20:00	V04-5	M
0005	SUN	11:40:00	AUX1	M
0006	SUN	11:55:00		
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

左図のように 5 行目が AUX の場合は 11:35:00 になっても 1 行目の時刻になるまでそのまま切り替わりません。

2. タイムテーブルの VTR-B フィールドを REPT にしたとき

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	SUN	10:00:00	V01-1	M
0002	SUN	10:30:00	V02-2	M
0003	SUN	11:00:00	V03-1	M
0004	SUN	11:20:00	V04-5	M
0005	SUN	11:40:00	V01-2	M
0006	SUN	11:55:00	REPT	
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

6 行目の V01-2 の番組終了タイムコードになると 1 行目が実行を始めます。1 行目のタイマーは無視されます。この後は 6 行までを永遠に繰り返します。

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	SUN	10:00:00	V01-1	M
0002	SUN	10:30:00	V02-2	M
0003	SUN	11:00:00	V03-1	M
0004	SUN	11:20:00	V04-5	M
0005	SUN	11:40:00	AUX1	M
0006	SUN	11:55:00	REPT	
0007				
0008				
0009				
0010				
0011				

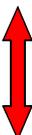
左図のように 5 行目が AUX の場合は 6 行目の時刻になったら 1 行目に制御が移り再び、5 行目まで実行します。この時点で 6 行目のタイマー時刻になるまで AUX1 の状態で待機します。

タイムテーブルに複数のスケジュールを記述し、実行する。

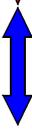
通常使用しているスケジュールパターンとは別に、ある特別の日だけ別パターンで動作させたい場合、次のようにします。

TIME TABLE

No.	Week	TIME	VTR-B	MOD
0001	SUN	10:00:00	V01-1	M
0002	SUN	10:30:00	V02-2	M
0003	SUN	11:00:00	V03-1	M
0004	SUN	11:20:00	V04-5	M
0005	SUN	11:40:00	AUX1	M
0006	SUN	11:55:00	REPT	M
0007	SUN	10:00:00	V1-2	S
0008	SUN	12:00:00	V2-5	2
0009	SUN	14:00:00	V3-2	S
0010	SUN	16:00:00	AUX2	M
0011	SUN	22:00:00	EMD	M



通常スケジュール



特別スケジュール

通常使用しているスケジュールの下にデータを入力します。左図を例にすると、通常は1から6行を実行していますが、特別スケジュールの7 - 11行を実行するときは7行目を強制実行します。

そして、特別スケジュールの最後まで実行すると通常スケジュールの1行目に戻ります。

特別スケジュールはいくつ記述してもかまいません。